

連絡先:総務部情報通信課

技術企画官 栗井 次雄 (あわい つぐお)

電 話 : 03-3591-9700 (直通、FAX 兼用)

03-3591-6361 (内線 2901)



平成 2 1 年 9 月 7 日

海 上 保 安 庁

## コスパス・サーサット北西太平洋地域会議の開催について

海上保安庁では、海洋政策研究財団の平成 2 1 年度海外交流基金により、北西太平洋地域においてコスパス・サーサットシステムを構成する、中国、香港、韓国、台北及びヴェトナムの各国・地域の業務管理センター(MCC)関係者等を招へいし、標記会議を開催しました。結果概要は以下のとおりです。

1 日 時 平成 2 1 年 8 月 2 6 日 (水) 0 9 : 0 0 ~ 1 7 : 0 0  
2 7 日 (木) 0 9 : 3 0 ~ 1 6 : 0 0

2 場 所 中央合同庁舎 3 号館 1 1 階 海上保安庁会議室

3 出席者 4ヶ国、2地域 計 2 6 名 (うち、招へい者 1 5 名)

事務局 :	Ms. Cheryl Anne BERTOIA	Deputy Head of Cospas-Sarsat Secretariat
中 国 :	Mr. Yang Shan Li	Section chief of China MSA
	Mr. Zheng Huai Yu	Section chief of China MRCC
	Mr. Wang An Jun	Deputy director general of China Transport Telecom Center
韓 国 :	Mr. Tae Young HA	Superintendent of Korea Coast Guard
	Mr. Kyung Won PARK	Inspector of Korea Coast Guard
香 港 :	Mr. Kwok Wai CHAN	Senior Marine Officer of Hong Kong Marine Department
	Mr. Michael P.M. POON	Electronics Engineer of Hong Kong Marine Department
	Mr. John Asson	Electrical Engineer of EMS Pacific Pty Limited
台 北 :	Mr. Yung-Chieh Shen	Director of Chungwa Telecom Co, LTD
	Mr. I-cheng Lin	System Manager of Taipei MCC
	Mr. Cheng-Sheng Huang	Assist Vice President of EMS Technologies agent in Taiwan
	Mr. Kuan-Yu Chou	Engineer of EMS Technologies agent in Taiwan
越 南 :	Mr. Thanh Van TRINH	Chief Technician of VNMCC
	Ms. Thanh Huyen Thi NGUYEN	Chief Operator of VNMCC
日 本 :	情報通信課	課長 中嶋 哲雄
		技術企画官 栗井 次雄
		課長補佐 天辰 弘二
		専門官 大久保 朋美
		管理係 坂本 伸男
	運用司令センター	主任衛星情報解析運用官 桜井 勝利
		衛星情報解析運用官 徳峯 裕一郎 他 4 名

4 会議結果 別紙のとおり

5 その他 本会議は、海洋政策研究財団の平成 2 1 年度海外交流基金により実施されたものです。

## 今回の課題の成果（結果概要）



本会議では、日本が北西太平洋地域の基幹 MCC としてコスパス・サーサットシステム全体に寄与していることが改めて認識され、また捜索・救助における国際協調及び国際親善に大きく寄与することができた。なお主要な議題に関しては以下のとおりとなった。

**1 QMS の導入について**

国際会議において、遭難者が発した位置等の情報をより正確に、より素早く捜索救助機関に伝送するために、コスパス・サーサットシステムに QMS (Quality Management System:品質管理システム) を導入することが決定された。

今会議では、コスパス・サーサット事務局によるプレゼンテーションが実施され、QMS に関する理解を深めるとともに、QMS データの報告の内容・方法等について確認した。また日本から、今年度内に QMS を日本の MCC (JAMCC) へ導入する計画があることを表明し、各国に承認された。

**2 基幹 MCC のバックアップについて**

基幹 MCC のシステムに障害が発生した場合、各 MCC からの遭難情報が送信できなくなり、捜索救助活動に悪影響を与えることになる。そのため、日本の MCC (JAMCC) システム障害時には、バックアップとして、アメリカの MCC (USMCC) へ遭難情報を送信することとなっている。今会議ではバックアップに関する月例試験を、USMCC と傘下 MCC との間にて実施することで合意した。

**3 MEOSAR システムの導入について**

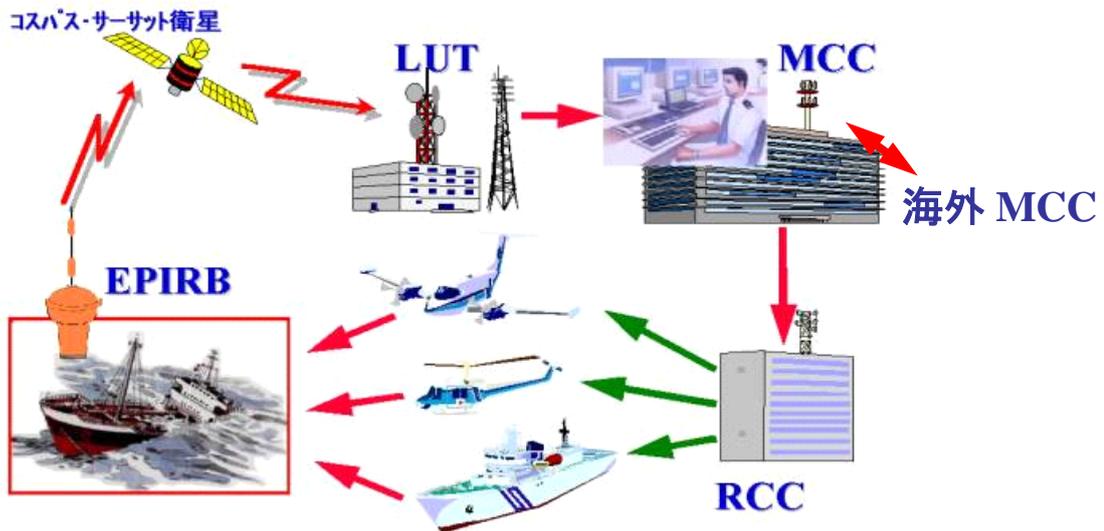
MEOSAR (中軌道衛星) システムは、コスパス・サーサットが導入を進めている次世代の人工衛星システムである。現行の LEOSAR (低軌道衛星) システムは、遭難者が発した位置を特定するための衛星処理に最長 2 時間も必要となることがあったが、MEOSAR システムでは即時に位置を特定することができ、また位置精度も向上する。

今会議では、コスパス・サーサット事務局によるプレゼンテーションが実施され、MEOSAR システムの現状及び進展に関する情報提供が行われた。また各事業者によるシステムの説明があり、各 MCC との情報交換・意見交換が行われ、MEOSAR システムに関する理解が深められた。

\*1 コスパス・サーサット

コスパス／サーサット衛星等によって遭難者を迅速に発見し、救助するための国際協定を締結した国々によって設立された国際機関（38 カ国及び2 機関が参加）。

我が国は、平成5年から地上部分提供国として参加しています。



\*2 業務管理センター (MCC : Mission Control Center)

コスパス・サーサットにおいて、遭難警報データを捜索救助機関や海外 MCC 等の関係機関に配信する機関。

海上保安庁警備救難部運用司令センターにある我が国 MCC (JAMCC) は、世界に6カ所 (日本・アメリカ・ロシア・フランス・オーストラリア・スペイン) 指定された基幹 MCC のうちのひとつとして、基幹 MCC 間でデータ交換を行うとともに、北西太平洋地域 (日本・韓国・中国・香港・台北・ヴェトナム各国・地域) 内の MCC に対し、データ配信を行う責任を有しています。

